

協 議 内 容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)

1. 開会のあいさつ
2. 会長あいさつ
3. 協議事項

協議事項① 福津市立図書館資料収集方針について

(事務局) 資料「福津市立図書館資料収集方針(案)」に沿って概要説明。

(河井委員) 整理されてとてもわかりやすくなっている。

「1. 基本方針」に「図書館の自由に関する宣言」が記載されているが若干違和感がある。図書館の自由に関する宣言は、「4. 資料選択の方法及び留意点」に入れたほうが良いのではないか。

(事務局) 基本方針は福津市の思いを入れ、図書館の自由に関する宣言は留意点のほうに記載するように修正を検討する。

(漆谷委員) 「3. 資料収集方針」の中に「(4) 視聴覚資料」と「(7) デジタルコンテンツ」があるが、この2つの違いがよくわからないので教えてもらいたい。

(事務局) 「(4) 視聴覚資料」はCDとDVDで、「(7) デジタルコンテンツ」はCD-ROMやDVD-ROM及び電子書籍のことだ。利用の方法が違うのでこの2つは分けたほうがわかりやすいと考えている。

(河井委員) 「電磁的記録資料」を「CD-ROM、DVD-ROM等」の前に持つてくるとわかりやすいと思う。

(漆谷委員) 「CD-ROM、DVD-ROM等」は省略して、「電磁的記録資料」だけでも良いと思う。

(山元会長) 以上の意見を踏まえ事務局で内容を一部修正し、福津市立図書館資料収集方針は決定とする。

協議事項② 福津市立図書館評価について

(事務局) 資料「福津市立図書館評価(案)」に沿って概要説明。

(河井委員) 評価表の達成率の右側あたりに評価を記入できる欄があったほうが見やすいと思う。

(山元会長) 「内部評価の説明」はどのような角度から書くのか。「内部評価の説明」よりは「分析」になるのではないか。

(漆谷委員) 評価基準は3段階くらいで良いのではないか。できるだけ簡潔な

内容にしないと非常に大変だと思う。

(河井委員) 評価基準(の達成率)が90%未満で「1」というのは厳しすぎないか。上も、「105%超」ではなく「100%」で良いのではないか。達成率は職員のがんばりだけでどうにかなるものではなく社会状況等にも影響される。

(漆谷委員) 達成率は外的要因に左右されるので私も「100%超」で十分だと思うし、必ずしも100%達成できるものでもないと思う。

(山元会長) 評価表の中に「今後の方向性」とあるが、これは「今後の改善点」という意味か。

(河井委員) 「今後の課題」のほうがわかりやすいと思う。

(漆谷委員) 達成できなかった時だけその説明をすれば良いのではないか。達成できている時は分析や理由はもう必要ないだろう。

(立山委員) 特殊要因があった時は書いてもらいたい。

(山元会長) 福津市図書館評価(案)で「内部評価」と「自己評価」という言葉はどちらかに統一したほうが良い。

(事務局) 「③外部評価」を「③関係者評価」に変更したいと考えている。教育委員会で法律に基づく評価点検を行っている。図書館でまとめたものを外部の評価に任せることを考えている。

(河井委員) 更にわかりやすくするために、図書館評価と図書館協議会評価を明記したほうが良いのではないか。

(清水委員) 3段階評価という意見が出ていたが4段階にしないと、評価がはっきりしない。

(漆谷委員) 清水委員の意見で言えば、②自己評価の「C」は「できた」になっているので「できなかった」にしないといけない。

(山元会長) 評価表の文言がどこに対応しているのかわかりにくい。

(事務局) まだ整理できていない部分があるので、委員の意見を踏まえ、次回の協議会に再提案する。

協議事項③ 福津市子ども読書プランについて

(事務局) 資料「福津市子ども読書プラン(案)」に沿って概要説明。

(河井委員) 福岡県は今年度中に新しい子ども読書推進計画は出せないと聞いている。

アンケート調査は予定しているか？前回の計画策定時と同じ項目

でアンケートを取らないと、計画が功を奏したかどうか判断できないのではないかと。どの図書館でも計画を作る時は3年とか5年に1回アンケートを取っている。前回の計画策定から今回までかなり期間が空いていると聞いたので、そこをどうするのかと思い意見を述べた。

(事務局) 非常に厳しい状況だ。今あるデータを活用し他市の状況も見ながら作っていくことになるだろう。

(山元会長) そういう状況であれば、「第2章これまでの取り組みの成果と課題」は縮小して「第3章これからの子ども読書活動推進計画」をメインに据えるような作り方も考えられる。

(清水委員) SNSをもっと活用したらどうか。子どもたちはSNSをよく見ているようだ。あと、読書感想文もいいと思う。学校で選ばれたものを配信すると盛り上がるのではないかと。ここでやっていることと子どもたちがかけ離れてしまい、本を読まなくなるのではないかと危惧する。ある意味、今はチャンスなのではないか。

(河井委員) 第3章に関係機関との連携協力と入れてはどうか。また、行政との連携について記載が無い。こども課など子どもたちと関わる部署にもこのプランを絡めていく必要がある。

(山元会長) プランごとにどの課がその役割を担うのか明記してはどうか。このプランは図書館だけで完結できるものではない。学校、行政、ボランティアなどを巻き込んだ形で作るのが望ましい。

(漆谷委員) 「障害者」の害の字をひらがなにしてほしい。意見は分かれると思うが、ある作家が「子どもを本嫌いにするには感想文を書かせたらいい」と書いているのを読んだことがある。なるべく、感想文ではなく「こんな本がありますよ」というように紹介しあう形にしたほうが良い。

(山元会長) 先日、ある研究会に出席し「GIGAスクール構想時代の読書推進はいかなるものか」というような話をしたのだがその中で、「子どもたちはタブレットを持っているので、読書感想文も、提出するのではなく、共通ファイルのような場所にそれぞれが書き込み、皆でそれを見てつながり合えるような方法を取っている」、という話が紹介されていた。これからの読書推進にはSNSを活用したのも入ってくることになるだろう。

(漆谷委員) 図書館に行きにくい人のために月に一回でもいいので本の宅配サ

ービスがあると良い。

- (秦委員) 子どもたちが図書館の利用カードを作る時、証明書は何を出したらよいか。自分のカードを持っていると図書館に親しみがわくのではないか。公共図書館に行きにくい子どものために、学校で公共図書館の本が借りられるようになればいいと思う。
- (清水委員) 中学生になると ID とパスワードをもらってそれで図書館を利用できれば嬉しいのではないか。
- (秦委員) 個人差や年齢的なこともあるので、そういう選択肢があってもいいと思うが、利用カードのような物理的なものが嬉しいと感じる子どももいるだろう。
- (事務局) 子どもがカードを作る時は、小学校の名札や保険証などを提示してもらっている。
- (立山委員) 学校図書館に市立図書館の本を持って行くということも考えてよいのではないか。図書館に通いにくい地域には図書館が出ていくことも必要だ。
- (事務局) 各学校に図書館はあるが、システムは学校ごとに独立しており連携していない。検討段階ではあるが、学校図書館と公共図書館のシステムの共有化を考えている。予算的な問題もあるのでシステム改修のタイミングで連携させていきたい。
- (河井委員) ある自治体では小学校 2 年生全員がバスで図書館に見学に来て利用カードを作るということを授業で行っている。そういう企画ができれば図書館利用のきっかけ作りになる。
- (山元会長) 「図書館と子どもたちの出会いを作る」といったことをプランの中に入れるといい。
多文化サービスになると思うが、日本語を母語にしない家庭の子どもたちへのフォローをプランの中に入れてはどうか。
- (安徳委員) 保育の立場からの発言だが、活字に触れずに成長し発達が遅れるということがある。保育所は ICT 化が進んでいるので、例えば季節ごとのおすすめの絵本の情報をもられればそれを保護者に発信することができる。子ども課の「福津市子育て支援アプリ・こどもの国」と連携するのも良いのではないか。

4. その他

- (事務局) 次回は令和 5 年 2 月～3 月開催を予定している。以上。